

棟方志功没後50年記念

棟方志功サミット in 青森

棟方志功ゆかりの地の首長が集い、棟方志功の魅力と未来を語る

入場無料
先着100名様
(事前申込み不要)



神鷲 1968年 倭画、彩色・紙 青森市蔵

開催日時

令和7年
9月7日(日)
9:30～12:00

会場

**青森県立美術館
シアター**

〒038-0021 青森県青森市安田字近野185
TEL 017-783-3000

プログラム

■開場・受付開始	9:00～ 9:30
■開会	9:30～ 9:40
■市内中学校による合唱 (志功ひとすじ道ほか)	9:40～10:10
■トークセッション (文化芸術と教育)	10:20～10:50
■参加自治体発表 (文化又は経済振興に向けた取組)	11:00～11:45
■共同宣言、閉会	11:45～12:00

参加自治体

青森 ～誕生の地～

中野 ～飛躍の地～

倉敷 ～信頼の地～

南砺 ～成熟の地～

杉並 ～大成の地～

主催 青森市・青森市教育委員会 協力 (一財)棟方志功記念館

後援 青森県 / 青森県教育委員会 / 東奥日報社 / 陸奥新報社 / デーリー東北新聞社 / 河北新報社 / 朝日新聞青森総局 / 毎日新聞青森支局 /
読売新聞青森支局 / 産経新聞青森支局 / NHK青森放送局 / 青森放送 / 青森テレビ / 青森朝日放送 / 青森ケーブルテレビ / エフエム青森

このイベントは、宝くじの社会貢献広報事業として実施しているコミュニティ助成事業による、宝くじの助成金で実施しています。





長島小学校6年生の教室で児童に囲まれ鯉の絵を描く
1951年9月22日撮影(東奥日報社提供)

青森市を愛した棟方志功画伯

1951年9月、棟方志功画伯が青森へ帰省した際に、出身校の長島小学校で6年生を対象に「お話を聴く会」が催されました。

画伯は小学校の思い出話をしつつ、黒板に貼られた模造紙に児童が驚くほどの速さで墨絵の鯉を描き、後日、着色・額装して寄贈しています。

この時参加した児童の感想文が東奥日報に掲載されると、富山県福光町(現・南砺市)に疎開していた画伯へと送られ、感激した画伯は感想文への感想を葉書で送っています。

青森市を愛し、青森市民に愛された画伯が没後50年を迎える今年は、画伯ゆかりの地の首長が一堂に会し情報交換を行う「棟方志功サミット」を、画伯が生まれた青森の地で開催します。

同時期に開催される棟方志功関連の展示

棟方志功没後50年記念展 「青森の子 世界のムナカタ」



児童学生安全祈願観音像図 1962年 倭画、彩色・紙
青森市立長島小学校蔵

【会期】令和7年7月19日(土)～11月3日(月・祝)

【会場】青森県立美術館

【主催】棟方志功没後50年記念展実行委員会
(青森市教育委員会、青森県立美術館、
一般財団法人棟方志功記念館)

青 森

～誕生の地～

刃物鍛冶屋の三男として生まれ、毎日絵を描いて幼少期を過ごします。22歳に画家を目指し上京するまで過ごした棟方志功のふるさと。晩年は夏のねぶた祭時期には帰郷し、大好きな祭りを楽しみました。

中 野

～飛躍の地～

画家を目指し上京した棟方志功が、創作の拠点として居を構えたのが中野でした。
意欲的に創作に励み「大和し美し」や「二菩薩釈迦十大弟子」といった代表作が中野で生まれます。

倉 敷

～信頼の地～

無名時代から棟方志功の才能を認め、良き理解者として最大の支援者であった実業家の大原總一郎氏。倉敷にある大原美術館には生涯にわたり交流のあった2人の信頼の証として、多くの作品が残っています。

南 砺

～成熟の地～

戦争疎開で約7年間滞在した南砺時代は、浄土真宗の僧侶や内外の文化人との交流から表現の幅を広げた時期でした。
「鐘溪頌」や光徳寺の襖絵「華嚴松」をはじめとする多くの作品を残しました。

杉 並

～大成の地～

疎開先の南砺から杉並に転居後、ベネツィア・ビエンナーレ展国際版画大賞などの数々の国際的な大賞を受賞するなど活躍し、世に「世界のムナカタ」を知らしめました。自宅にて永眠。

青森県立美術館交通のご案内

- JR新青森駅から車で約10分
- 青森駅から車で約20分
- 青森空港から車で約20分
- 東北縦貫自動車道青森I.C.から車で約5分
〔八戸方面から〕青森自動車道青森中央I.C.から車で約10分
- 青森市営バス青森駅前(6番のりば)から
三内丸山遺跡行き「県立美術館前」下車
(所要時間約20分)
- ルートバスねぶたん号JR新青森駅東口(3番のりば)から「県立美術館前」下車(所要時間約10分)

